

## 温家宝中国首相訪日の成果と課題

2007年4月

温家宝首相の訪日が終了したが、今回の訪問で日中双方が得た成果は、中国首相としては6年半ぶりの訪日であるという象徴的意義を上回る、具体的なものだったと言えよう。それは以下の二点に現れている。

第一に、広範かつ多層的なレベルで、「戦略的互惠関係」構築のための協力内容が示されたことである。

例えば、「両国指導者の頻繁な往来」については、首脳会談で言及された本年中の安倍首相訪中と来年早期の胡锦涛国家主席訪日でその第一歩が刻まれることが期待される。これは、「毎年いずれか一方の国の指導者が相手国を訪問する」ことを謳った1998年の日中共同宣言を上回る成果をもたらすことにつながるものだ。

環境保護とエネルギー協力に関する文書署名は、今後の日中協力の大きな方向性と互惠性を明らかにした。また、国際社会でのさらなる貢献を願うわが国の姿勢に対する中国側の疑念は、「国連改革に関する日中協議」を通じて払拭されることが目指され、長年の懸案であった「中国海軍艦艇の訪日」は、日中防衛当局間の信頼醸成に役立つ。

第二に、きわめて逆説的ではあるが、こうした成果によって日中間の懸案事項が浮き彫りにされたことである。

東シナ海のガス田開発問題の解決糸口は、「平和・協力・友好の海」や「互惠原則に基づく共同開発」といった美しい表現とは裏腹に、未だ見つかっていない。共同開発の対象が「双方受け入れ可能な比較的広い海域」と特定されず、「本年秋に共同開発の具体的方策につき首脳に報告する」ではなく、「報告することを目指す」とされている点に問題解決の困難さがうかがわれる。

また、安倍内閣の最重要課題である拉致問題解決への具体的支持も取り付けることはできなかった。中国の協力を得たいとした安倍首相に対し、温家宝首相は「必要な協力は提供する」という従来からの一般論を述べるに止まったのである。

今後、こうした懸案事項は、共同プレス発表で謳われた「アジア及び世界の平和、安定及び発展に対して共に建設的な貢献を行う」という戦略的互惠関係の基本精神に基づく大局的視野での解決が目指されるよう期待したい。

12日に行った国会演説で温首相が、過去の侵略に対する日本側の謝罪について「積極的に評価」し、改革開放に対するわが国の支援を「永遠に忘れない」と述べたことは、わが国の草の根レベルでの対中感情改善に寄与するであろう。しかし、共産党政権に対する影響力をますます強める中国の大衆世論が、こうした主張を無条件に受け入れる保証はない。また、対日関係改善への舵切りは、安倍首相の「靖国参拝曖昧政策」を中国政府が大きなリスクをもって受け入れたことによって可能となった。

日中両国の指導者には、今後、構築が始まったばかりの脆弱な信頼関係の足元を一步一步固めていく地道な努力が求められている。